

平成29年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業 研究指定校の取組

西ノ島町立西ノ島小学校

【平成29～30年度指定】

都道府県・指定都市番号	32	都道府県・指定都市名	島根県・西ノ島町	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	体育
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>【運動領域】 2年ごとのまとめりとして示されたA～Fの各領域の指導内容の(3)「思考・判断」に関する内容について、それまでに身に付けた知識や技能を基に思考・判断し、児童自らが課題解決を図るための効果的な指導と評価の在り方についての研究 B器械運動</p> <p>【保健領域】 身近な生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究 第3学年の「(1)毎日の生活と健康」</p>				
ふりがな 学校名 (児童数)	にしのみまちょうりつにしのみましょうがっこう 西ノ島町立西ノ島小学校 (94人)				
所在地 (電話番号)	島根県隠岐郡西ノ島町大字美田 3515 (08514-6-0404)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/">http://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/</a> (島根県教委)				

研究のキーワード

課題解決学習 主体的・対話的で深い学び カリキュラムマネジメント 言語活動の充実 ICT機器の活用

研究結果のポイント

- 学校全体で、カリキュラムマネジメントを促進することで、効率的・系統的・効果的に体育学習を展開することができた。
- 学習過程を工夫したりICT機器を活用したりすることにより、友達と教え合ったり、進んで練習に取り組んだりするなど主体的・協働的に学習に取り組むことができた。
- 書く、教え合う等の言語活動を指導計画に明確に位置付けることで、言語活動と運動量のバランスが確保でき、より効果的な学びにつながった。

1 研究主題等

(1) 研究主題

「自ら学び、考え、解決する楽しい体育の創造」  
～思考力、判断力、表現力を育む協働的な課題解決学習を通して～

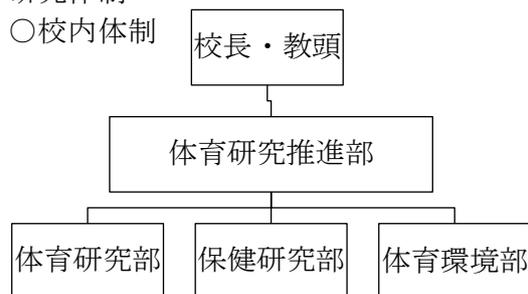
(2) 研究主題設定の理由

本校の新体力テストの結果を全国平均と比べてみると、男女共にどの学年も体力合計点が上回っている。また、保健的側面から児童の実態を見ると、保健に関する学習指導や定期的な生活習慣調査により、自らの健康を保持増進していくための習慣や知識を身に付けている児童は多いと思われる。一方、日常の授業の様子を見てみると、「どうすればきれいに技ができるか」「どうすれば高く跳べるようになるか」などといった、児童自ら考えながら課題解決を進めていく力が十分に育成されておらず、児童を対象に行った意識調査からもその実態が明らかとなった。

以上のことから、「器械運動」並びに「毎日の生活と健康」領域を中心に、思考力、判断力、表現力を育むための協働的な課題解決学習、評価の在り方の研究を進めることで、児童が生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育成していきたいと考えた。

(3) 研究体制

○校内体制



○校外体制

- ・島前小体連との共同研究会実施
- ・隠岐郡教研体育部会との共同研究会実施
- ・出雲市小体連との研究交流
- ・外部指導者招聘(岩手大学 清水 将先生)

(4) 1年目の主な取組

平成 29 年 度	4月	研究推進計画の作成(組織, 年間スケジュール, 仮説, 研究方法等)
	5月	児童アンケート実施並びに分析
	6月	指導主事訪問 研究授業(外部講師招聘)
	7月	教材研究・指導案検討
	10月	教科調査官を招聘した授業実践及び研究協議 隠岐郡教研西ノ島大会の授業公開 先進校研究大会への参加と報告
	12月	教材研究・指導案検討
	2月	指導主事訪問 研究授業 児童アンケート結果の考察 研究成果中間報告会

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

【運動領域】 研究内容を「器械運動」に焦点化する。

- ① 運動の特性に触れ, 動きを高めていくための工夫と改善
- ② 課題を解決していくための工夫
- ③ 思考力, 判断力, 表現力の育成を図る言語活動と評価の在り方

【保健領域】 研究内容を第3学年「毎日の生活と健康」に焦点化する。

- 知識を活用し, 健康課題を解決するための工夫

(2) 具体的な研究活動

【運動領域】

- ① 運動の特性に触れ, 動きを高めていくための工夫と改善

(ア) 学習過程の工夫

○基礎感覚づくりの運動

- ・主運動につながる基礎的・基本的な動きを身に付けるために, 全学年で器械運動系の単元を通して基礎感覚づくりの運動に取り組んだ。
- ・授業の前半は基本的な技を共通課題とし, 後半には挑戦したい技に取り組んだり, 集団演技など, 今できる技を質的に高めたりするための場を設定した。

(イ) 単元計画の工夫と改善

○単元計画の改善

- ・小学校6年間を見通して, 各学年で学ぶべき学習内容や育てるべき力を明確にした。
- ・器械運動系の学習の時期を学校全体で揃えるなど, 単元計画配列を全面的に見直した。

○9か年の系統

小・中一体型施設であることを活かし, 9か年の系統立てた単元計画の改善を図った。

○地域・家庭との連携

- ・小学校入学前や家庭での生活経験を含む運動経験につなげた。
- ・教室や家庭でも柔軟運動に取り組むなど, 運動の日常化を目指した。

### (ウ) 学習環境の工夫

#### ○レスリングマットの常設

- ・レスリングマットを体育館に常設して、マット運動や体づくり運動を行った。
- ・教科体育のみならず、休憩時間などにも開放し、自由に体を動かせる場を設定した。

### ② 課題を解決していくための工夫

#### (ア) 学習形態の工夫

##### ○学び合う場面の設定

- ・小グループに分かれて、友達の動きを見て、相互にアドバイスし合う場面を設定した。
- ・友達に見てもらおう際には、自分の課題を相手に伝え、アドバイスをもらうようにした。

##### ○学び合いが生まれる学習課題の設定

- ・多くの児童が感じている課題を学習全体の共通学習課題として設定した。

#### (イ) 児童の理解を深める教具・機器の工夫

##### ○教具の工夫

- ・手型・足型シートや目印シートを設置した。

##### ○ICT機器の活用

- ・視覚を通して理想とする姿や動きのイメージの共有化を図るとともに、スロー再生、一時停止によって演技を自分の目で確認し、技能の向上を目指した。

##### ○掲示物や学習カードの工夫

- ・図や短い言葉で学習内容を掲示物にまとめていくようにした。
- ・学習カードで見通しやめあてを確認したり、次時に向けて学習を振り返ったりした。

### ③ 思考力、判断力、表現力の育成を図る言語活動と評価の在り方

#### (ア) 意図的・計画的な言語活動の設定

- ・個々の技能の向上と友達同士の学び合いの充実を図るため、言語活動の場面や時間を意図的・計画的に設定した。

#### (イ) 意図的・計画的な評価計画の設定

##### ○技の必要条件・こつ

- ・技の「必要条件」を示し、技ができるようになるための「こつ」を動画や資料から自分たちで見付けられるようにしたりした。

##### ○ICT機器を活用した評価

- ・個別の課題や共通の課題を把握し、次時以降の指導に生かすようにした。
- ・前時までの動きを本人が確認し、自分の課題や成果を確かめられるようにした。

### 【保健領域】

知識を活用し、健康課題を解決するための主体的・対話的な学習活動の工夫

#### (ア) 考えを広げ、深める学習活動の工夫

- ・児童の実態や学習内容によって、体験的な活動、話し合い、ブレインストーミングなどの学習活動を吟味し、多様な考え方を全体で共有できる場を設定した。
- ・授業の終末には、学習で得た知識を生活で活用できるよう、ケーススタディやロールプレイングなどの活動を取り入れた。

#### (イ) 課題解決型の学習過程の設定

- ・身近な生活場面から課題を見付け、解決を図っていく学習過程を設定した。
- ・保健領域の学習過程「西小保健の学習スタイル」を作成し、活用した。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

#### 【運動領域】

##### ①器械運動の特性に触れ、動きを高めていくための工夫と改善

○主運動につながる基礎感覚づくりの運動を計画的に行ったり、マットの常設による運動量の確保を図ったりしたことで、運動技能の向上が見られた。

●確実な技能の習得を目指し、一単位時間の中で、練習する技を限定し、学び合う時間を保証する学習過程を中心に据えたが、個に応じた指導の面から、学習に向かう動機付けや単元配列の在り方については検討の余地がある。

##### ②課題を解決していくための工夫

マット運動の授業について事前・事後にアンケートを実施した。その中で、友達との学び合いや課題解決に関わる設問についての結果は以下のとおりである。

質問項目	事前	事後
体育の授業の中で、こつを友達にアドバイスしている。	63%	90%
体育の授業の中で、友達からこつをアドバイスしてもらっている。	68%	99%
体育の授業の中で、技がうまくなるにはどうしたらよいか等、よく考えながら授業を受けている。	68%	89%
友達のいいところを真似して、自分の動きを高めようとしている。	77%	100%

この結果から、友達と学び合って技能の向上を目指す姿勢や課題解決に取り組む意識の向上がうかがえる。要因としては、教師主導の「教え込み」の授業ではなく、児童同士の関わり合いを大切にされた課題解決型の学習を展開していったことが大きく関係していると考えられる。

○グループで関わり合いながら学習を進める必然性が生じ、児童が積極的にアドバイスをし合いながら課題を解決していく姿が見られるようになった。

●アドバイスの内容が、児童によってまちまちであったため、より具体的に、必要感のある「対話」を生み出すことができるような教員の見取りと児童への働きかけが必要である。

##### ③思考力、判断力、表現力の育成を図る言語活動と評価の在り方

○計画的な言語活動の位置付けにより、運動量を保証したうえで課題を解決していく時間の確保ができた。児童は技能向上に向けて自分の動きを考えながら練習に取り組めた。

●個別の課題に取り組んでいる際、個々の取組に対する評価が十分に行えていなかった。児童の活動や発言に対する見取りの方法と判断基準を明確にすることやワークシートの評価項目の精選が必要である。また、自分の課題を解決するために必要な場を設定する際、それに係る準備時間や教具の確保について改善の余地がある。

#### 【保健領域】

##### 知識を活用し、健康課題を解決するための主体的・対話的な学習活動の工夫

○単元導入時に、身近な生活問題を取り上げたことで、保健学習に対する意欲が高まった。また、課題を解決する際に、グループでブレインストーミングを行うことにより、多様な考えが出され、思考に広がりが見られた。

●学んだことを「実生活に生かす」だけでなく、「実生活と関連付けて考えることにより知識を深め、現在・未来につなげていく」という構えを大切にしていける必要がある。学んだ知識を実生活に生かしていくためには、その取組を教育活動の中に位置付け、計画的に実践していく必要性を感じた。

### 4 今後の取組

運動領域については、基礎感覚づくりの内容の精選や、思考力、判断力、表現力の育成に向けた児童相互の言語活動の質の向上を意図した実践研究を進めていきたい。課題解決に向けて必要感のある対話を生み出す活動や動機付け、並びにその評価の在り方について研究を深めたい。

保健領域に関しては、運動領域との関連場面に焦点を当てつつ、実生活とのつながりを重視し、他教科や学校行事、また家庭との連携をどう図っていくかを中心に実践していきたい。

体育の見方・考え方を働かせ、体育における多様な楽しさを味わえる授業を探っていきたい。